令和６年度

事　業　報　告　書

（１）学校目標

（２）教学改革計画

（３）学生募集対策

（４）外部資金獲得

（５）人事政策

（６）経費抑制計画

（７）施設設備整備計画

（８）その他

武蔵野栄養専門学校

（１）学校目標

①学校スローガン

エイヨウ、未来、切リ拓ケ。 　　～変化を恐れず、共に成長する学びの追求を～

令和６年度は、これまでの教育を継続しつつ、在校生に対しても入学希望者に対しても武蔵野の魅力を最大限に伝えていくことで選ばれる学校となるよう教職員が志を共有して取り組んでいくことを目標に、上記の学校スローガンとして取り組んだ。
合理的配慮の義務化もありこれまでに例のない学生対応を求められる場面や、少子化・大学全入化のあおりを受け、クラス数の減少や１クラス人数の減少による授業展開を求められ、課題の多い１年であった。

②目標達成のための優先課題と活動概要

ａ．学生募集（必要に応じて項目を作成）
教職員自らが SNS、YouTube などを駆使したプロモーションを積極的に実施し、一定の効果がみられた。体験入学やイベント内容を精査し、参加者を増加させる対策を講じ続けたが、令和７年度は定員数を大幅に下回る入学者数となった。原因となる背景を共通理解し、令和８年度は、栄養士業務の楽しさや遣り甲斐について、SNS 等を通じて伝えることを強化していく。

ｂ．カリキュラムの見直し（必要に応じて項目を作成）
令和８年度のカリキュラム改変に向けてカリキュラム検討委員会を立ち上げ、求められる教育の実現に向けたカリキュラムについて検討した。令和７年度は科目を精査し、新規に設定する科目や現代に合わせて科目名の変更・開講時期について検討した。今後は科目ごとに到達目標や授業内容について精査していく。

ｃ．卒業生ネットワークの構築（必要に応じて項目を作成）
登録された卒業生に対して、月に１回程度メールマガジン（MUSASHINO　NEWS）を通じて、学校行事や取り組み、学生の活動、研修・講習会等の情報を配信している。このメールマガジンは卒業作品展においても卒業生に紹介し、今年度は配信対象者を 100 名以上に増やすことができた。引き続き情報を配信するとともに、R8 年度はこの取り組みを発展させ、ホームカミングデー開催へとつなげていきたい。

ｄ．学校の特色となる実習室の整備（必要に応じて項目を作成）

令和６年度中に、２号館の全てのフロアにてトイレの改修工事が終了した。
学生募集のアピールポイントとなる大量調理実習室では回転釜・フライヤーなど大量調理に欠かすことのできない機器類の交換を実施し、大量調理実習室の設備が整備された。また、教室の机・椅子の交換及びこれまで３号館まで移動しなければならなかったコンピューター室を２号館８階に移動、ＰＣ等の機器類も刷新され、学生の学習環境の整備が進められた。これらを、教育の質向上とともに学生募集にも効果を発揮させ、令和８年度の学生数増加に繋げていきたい。

（２）教学改革

①中期計画に基づく実施計画

ａ．社会状況や世界の動向などを見据え、今必要とし求められる教育を実現するため、カリキュラム改革に取り組んだ。カリキュラム検討委員会を立ち上げて検討を続け、令和８年度の改変に向けて科目を決定した。今後は科目ごとに到達目標や授業内容について精査していく。

ｂ．教育理念（体で覚えた技術は一生を貫く）に基づく人材の育成
本校の強みでもある大量調理実習等で実践的な授業を開講している施設（給食室等）について、かねてから希望していた調理機器類の交換を令和６年度に実施し、教育環境を整えることができた。

ｃ．教科・組織の再構成
姉妹校が隣接する強みを生かし、法人内で連携・協力した授業を開講するため、学園間の教職員・講師の連携・協力を進めているが実施には至っていない。今後は、ICT 教育に力を入れていくため、武蔵丘短期大学の先生方の専門的な知識を本校の教職員のスキルアップのための研修及び授業力の向上等へと発展できるよう検討を進めている。

ｄ．教職員のスキルアップ（外部研修、内部での研修・授業研究等）
教育の質を向上させるため、教職員が様々な研修に参加した。学園では、メンタルヘルス基礎研修・管理職研修が実施され、学校としては学校づくりをしていくためのマーケティング基礎研修・企業（雪印メグミルク）による実務研修などを実施した。また、教職員各々が自分の業務や授業に関わる外部研修に積極的に参加した。

②カリキュラム改革等

ａ．教育内容の ICT 化
ICT を活用した教育内容への改革のため、事前準備として機器面及び教育する側の教職員への研修も含め、具体的に検討している。

ｂ．カリキュラム内容の見直し
カリキュラム検討委員会を中心に現行のカリキュラムの見直しを図り、現代のニーズに合った学生満足度の高い教育内容へと改革を進めている。

③キャリア支援･就職支援

ａ. 教育環境の整備や充実化

より実践的で効果的な実習を実施するため、給食室の機器の入れ替え、調理実習室のＡＶ機器の入れ替えを行った。また、令和５年度より実施されていたトイレの改修工事は令和６年度中に２号館の全てのトイレにおいて改修を修了した。

令和６年度末には、教室の机と椅子の入れ替えが終了し、教育環境が整ったことで募集活動にも効果がでるものと期待している。

ｂ. 就職支援

学生自身が将来の活躍分野や就職観について意識付けをしていく必要があるため、分掌組織の「進路開発」担当を中心に、担任と協力して自己分析から就職先の選択、活動方法など、積極的に支援した。結果、就職希望者の 100％が就職決定となった。

④学生支援･中途退学対策

ａ. 奨学金給付制度を利用する学生の支援

令和２年度より開始した高等教育の就学支援新制度について、利用する学生のサポートを行い対象機関としての各種要件維持および支援継続に欠かせない学習状況についての要件確認を実施した。

ｂ. 中途退学対策

近年、退学する理由が様々になり、学生対応も多様化している。精神的に問題を抱える学生が増加していることから、スクールカウンセラーとの連携を強化し、欠席の増加や退学の兆候について未然に防げるよう努力している。また、教学改革 PT の提案により、令和６年度中にカウンセリング回数の増加を実現させることができた。今後も学生が相談しやすい環境作りを推進し、退学者数の減少を図りたい。

ｃ. 学生相談

令和６年度は合理的配慮を申し出る学生もおり、学生相談体制の構築が課題となった。学生相談はクラス担任に比重が大きく、専門家介入の必要性を感じた。学習障害などへの対応は今後も増加していく可能性があるため、教職員の理解や対応方法などについて学んでいくことが必要で、研修の実施やカウンセラーとの連携など未だ課題が多く残っている。問題を抱える学生に対しては家庭との連携を取りながらサポートを行い、日々の指導記録を作成し、教職員間での共通理解を図った。

（３）学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

ａ．SNS、YouTube などを駆使したプロモーション、教育の視覚化

学園４校において HP・SNS による宣伝を強化している。高校生や大学生などの既卒者を中心とする入学対象者へ本校の知名度向上及び学校の理解を深めてもらうことを目的として、教員という立場ながらも地道に SNS 対策を強化し、積極的に配信した。Instagram については令和６年度後半にフォロワー数が 4,000 人を超えた。閲覧者数が増加したため、これまでよりも投稿内容には充分留意し学校の知名度向上のため SNS ツールを有効活用していく。

ｂ． SNS、YouTube などを駆使したプロモーション・メディアからの企画を積極的に受け入れる。

HP の強化・SNS が有効媒体となるよう、興味が湧く魅力的な投稿作成に尽力している。入学希望者に対しどのような宣伝を強化すれば良いのか、各会議にて吟味し学校の魅力を最大限に伝えるよう努力している。引き続き入学希望者が求める情報をアンケート等でリサーチし、本校を選んだ理由・選ばれなかった理由を洗い出す。令和７年度は定員数を大幅に下回る入学者数となったため、原因となる背景を共通理解し、令和８年度は、栄養士業務の楽しさや遣り甲斐について、SNS 等を通じて伝えることを強化する。

②体験入学･学校説明会等

ａ．広報局と連携した体験入学の企画立案・学生スタッフの育成

体験入学やイベント内容を精査し、参加者を増加させる対策を講じている。学生サポーターに対し、学校について説明ができるよう充分に助言・指導するとともに、参加者とのコミュニケーションの取り方等の対応力を育成した。年度初めには、高等学校の現状、ガイダンス等訪問時の強調点、カリキュラムや教育について広報局との共通理解を図った。また、体験入学実施前には広報局と栄養専門学校担当教職員において、内容やタイムスケジュールについて綿密な打ち合わせを行った。令和２年度より学校内に募集情報担当が組織化され、パンフレット作成、ホームページの確認・掲載依頼、体験入学時のリーフレット・動画作成などに携わる他、令和３年度に発足した学生サポーターが体験入学や、各 SNS に携わり学生の視点から本校の魅力を伝えている。今後も広報局・教職員・在校生と連携を図っていく。令和７年度は、体験入学時の個別相談対応の必須化、在校生から参加者に対しての声かけ

を強化する。令和７年度から募集情報課分掌中に、栄養士業務や本校の楽しさを様々な形で発信していく組織を編成し、入学者獲得へ繋げることを目標とする。

③その他の取り組み

ａ. 社会人・既卒入学者の募集対策を強化する。

入学者の獲得のため、大学・短大・他の専門学校を卒業または在学中で進路変更希望者や、栄養分野で社会人の学び直しなどリカレント教育にも募集範囲を広げた。

後藤学園同窓生推薦制度・リスタート支援制度・教育訓練給付金制度（専門実践教育訓練）・東京都専門人材育成訓練などを周知することにより既卒者の入学者増を目指したが、まだ効果が十分ではなかったため、新たな打ち出し方を検討していく必要性を感じた。

ｂ. 総合型選抜エントリー期間の延長

令和６年度も引き続き総合型選抜（旧ＡＯ入試）のエントリー期間と願書受付期間を１か月延長した。

ｃ. 教職員によるガイダンス・模擬授業の実施

広報局より依頼された模擬授業や出張授業には積極的に参画した。教員自らが出向き本校の魅力を伝えていくことは効果的であり、令和７年度も引き続き協力体制を整えていきたい。

（４）外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

ａ．料理教室の実施

調理実習室を活用した対面型の料理教室・講習会の実施に向けて企画・準備を進めたが、実際の開催には至らなかった。しかし教職員の指導力向上や研修の場としての意義も踏まえ、次年度の開催を目指す。

②その他の取り組み

ａ．卒業生ネットワークの構築

月に１回程度、メールマガジン（MUSASHINO　NEWS）で、学校行事や取り組み、学生の活動、研修・講習会等の情報を継続して配信することができた。また学園祭では卒業生に向けた紹介も行い、今年度は配信対象者を 100 名以上に増やすことができた。引き続き情報を配信するとともに、来年度はこの取り組みを発展させ、ホームカミングデー開催へと繋げていく。

ｂ．公益社団法人集団給食協会との連携

昨年度から継続した取り組みとして、月に一度外部企業 HP にコラムを掲載した。今年度は年間で 12 回掲載し、外部資金を獲得することができた。今後も連携をしつつ、一定額の外部資金を獲得していく。

（５）人事政策

①中期計画に基づく実施計画

令和６年度は１名の減員となったが、育休中の職員が４月中旬より復帰したため稼働人数に変更はなかった。また、事務局より事務職員が１名配置され、専門人材育成訓練生の事務処理や訓練生対応を担当、担任の負担が軽減された。とはいえ、学生対応や授業対応以外の業務も多く、更なる合理化・効率化が必要である。

②組織編制･要員計画

令和２年度より分掌による組織運営を行っている。今後を見据えてメンバーを固定せず、人員交換を行いながら様々な分野の業務を習得させたいと考えているが、大幅な変更はできなかった。新たな視点からその業務を見て改善すべきものは改善し、より良い組織運営を目指すため、今後も定期的に人員交換をしていきたい。

③教職員研修･能力開発

日々の業務の中での OJT の他、私学財団主催の各研修への参加、実務面での食品会社による研修（雪印メグミルク）、教育や学生支援に関するコンサルティング会社による研修を実施した。また、法人事務局によるハラスメント研修・カウンセリング研修・管理職研修などにも参加した。

（６）経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

ａ．学園祭設営費削減（５１万円の削減）

学園祭製作費として１クラス６万円（設営費４万円・イベント費２万円）、１研究室５万円（設営費３万円・イベント費２万円）計上していたが、展示及び発表方法などの見直しを図り２万円ずつ削減（２４万円）し予算計上を行った。

さらに、購買品の一括購入やベニヤ・タルキを再利用したことで２５万円の削減となった。

（７）施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

ａ．トイレの修繕・改修の実施

令和６年度中に、２号館の全てのフロアにてトイレの改修工事が終了した。これにより学生満足度の向上が図れた。今後、学生募集にも充実した施設設備としてアピールしていきたい。

ｂ．栄養士業務の根幹となる大量調理実習室の整備

学生募集のアピールポイントとなる大量調理実習室は、施設・設備とも老朽化が進んでおり、調理機器等の設備の交換を実施できるよう準備を進めていたが、令和６年度中に①回転釜、②ガスレンジ、③フライヤー、④縦型炊飯器、⑤スライサー、⑥食器乾燥保管庫、⑦3 層シンクが交換され、大量調理実習室の設備が整備された。栄養士の実体験となる授業の場であり、カリキュラム上でも重要なアピールポイントとして今後の学生募集に繋げていきたい。

②その他の取り組み

先にも述べた通り、令和６年度末に教室の机・椅子の交換が完了し、学生の学習環境が整備された。

また、これまで３号館に移動しなければならなかったコンピューター室を２号館８階に新設することができた。調理師学校との共用施設から栄養専門学校単独で使用できる施設へと変わることにより、様々な科目にてコンピューターを使用することができ、施設の充実へと繋がる。これを教育の質向上とともに、学生募集にも効果を発揮させ、令和８年度の学生数増加を目指していく。

なお、２号館６階に移設されたロッカー室には、個人ロッカーのみならず、貴重品ロッカー、実習関係用品収納ロッカーが設置され、より学生が利用しやすくなった。

（８）その他

①社会貢献･地域貢献活動

ａ．専門人材育成訓練校の取り組み

本校は、東京都から民間職業訓練機関として委託され５年目を迎えた。また、本年度より栄養科の委託校が４校と２校も増加になったため、これまでの実績や経験を生かし、受講生から「選ばれる訓練校」を目指して教育にあたった。さらに、専門人材育成訓練校として、訓練生に栄養士としての知識・技術・技能の育成に一層力を注ぎ、訓練生の就職支援を推進し、広く社会に貢献できる栄養士を引き続き輩出していく。

ｂ．豊島区生涯スポーツ推進事業の取り組み

一昨年度から豊島区体育協会主催の生涯スポーツ推進事業が再開し、シニア対象の講習会（１１月）とジュニア対象の講習会（２月）を実施した。今後も連携・協力して地域の期待に応え取り組む。

ｃ．江東区子ども食堂の取り組み

一昨年度の１０月から江東区子ども食堂に学生がサポート役として参加している。引き続き進路開発担当教員が窓口となり、学生に応募を呼び掛けて参加を促すことで、今後も連携協力を深める。